

第70回スタディグループ分科会結果報告

運営委員長 菊地浩二

(文責：阿部)

1. 開催日時 2018年9月13日(木) 午後2時30分～午後4時55分
2. 開催場所 文京区民センター3階D会議室
3. テーマ 「海外子会社監査の手法と課題」
4. 発表者
コーディネータ 元日新電機(株) 常勤監査役 金馬 房雄 氏
リーダー 日鍛バルブ(株) 常勤監査役 菊地 浩二 氏
兼松エレクトロニクス(株) 常勤監査等委員 高橋 薫 氏
5. 出席者 27名(含む発表者)
6. 配布資料 ①総括表
②当社の海外子会社監査の取り組み(兼松エレクトロニクス)
③海外子会社13社の監査(日鍛バルブ)
④当社の海外子会社の監査役監査とその課題(日新電機)
7. 議事次第、質疑応答・意見交換
(前半 14:30～15:40)
 - 1) 菊地運営委員長の開会挨拶に続き、初参加者2名(スーパーバッグ(株)毛塚和男氏、(株)プレントリー池畑光造氏)の紹介がありました。
 - 2) 続いて金馬氏より、テーマ選定の経緯(報告会を7回実施)、進め方の説明がありました。
 - 3) 配布資料に基づく説明に移り、
①高橋氏(上記資料②)、菊地氏(上記資料③)より、それぞれ説明がありました。
(後半 15:45～16:55)
 - 1) 金馬氏より、上記資料④に基づき、説明がありました。
 - 2) 質疑応答・意見交換
 - ①現地管理者が、現地語を読めるか否か、大切なポイントである。
 - ②中国は監査役にあたるものなく、親会社監査役往査に期待するもの大である。
 - ③現地子会社から定期的にレポートが届くような「仕組み」はない。(各社とも)
 - ④会計監査の観点は、どうか。
菊地:連結決算の視点(会計士、本社経理)で見ているのでそれに
依拠している。
高橋:連結パッケージの視点で見ている。(直近1ヶ月の伝票は見ている)
金馬:原則は現地の監査法人に委ねている。また、売掛金等に関する質問を
事前質問事項として加えており一種のサンプリングではあるが見ている。
 - ⑤本社の海外子会社各担当部門(人事、法務、業務等)へのヒアリングは行っているか。不祥事予防の観点から、定期的な報告をさせることは有益である。

以上